

こふんじだい 古墳時代

3世紀後半～7世紀頃



クニのリーダーたちは、^{みずか}自らの力^{ちから}の強^{つよ}さを示^{しめ}すために、^{きょだい}巨大な墓^{はか}を作^{つく}らせました。これが古^こ墳^{ふん}です。^{げんざい}現在の奈良県^{ならけん}・大阪府^{おおさかふ}の前方後円墳^{ぜんぽうこうえんふん}を中心^{ちゅうしん}に、各地^{かくち}に古墳^{こふん}が作^{つく}られた時代^{じだい}を、古墳時^{こふんじ}代^{だい}と呼びます。古墳^{こふん}のなかには、死者^{ししや}に供^{そな}えられた武器^{ぶき}や宝飾品^{ほうしょくひん}など様々^{さまざま}な品物^{しなもの}（副葬品^{ふくそうひん}）が納^{おさ}められていました。この頃^{このころ}、朝鮮半島^{ちようせんはんとう}と活発^{かつぱつ}な交流^{こうりゅう}が行^{おこな}われ、た^たくさんの知識人^{ちしきじん}や技^ぎ術者^{じゆつしゃ}（渡来人^{とらいじん}）によ^よって、馬^{うま}の利^り用^{よう}や飼^し育^{いく}法^{ほう}、鉄器^{てつき}の生^{せい}産^{さん}技^ぎ術^{じゆつ}などが伝^{つた}えられました。

